

平成28年度事業報告

2017.6.8

[主旨]

日本経済は、緩やかな回復が続いていると言えるが、世界的には、欧米における政治的な、中東、北朝鮮における軍事的な緊張が高まっており、困難な状況が続くとみられる。

中小企業においては、好不況がまだ模様であるが、質の高いものづくり、海外展開に成功しているところもある。

デザインをエンジンにして、付加価値、経済価値の高いものづくりを働きかけていくことが我々の課題である。

大阪デザインセンターは、平成26年4月1日に一般財団化し、「民に近い公益」の見地から諸事業を進めている。

平成28年度には、「中長期事業スキーム」を定めて、①価値創造開発軸、②情報価値共有軸、③国際軸 の3軸で、事業を絞り込みながら、取り組んだ。

従来の人材育成事業は各講座で別々に募集していたが、プロデューサー講座、デザインシンキング講座、販路・市場講座を関西フランスデザイン交流事業の参加企業向きに通して開催した。受講生、受講企業によって、必要な講座のフェーズが違うので、一律にすることも難しい状況であった。

JDF国際デザイン交流協会の資産を受け継いでいるので、国際デザイン交流にも積極的に取り組み、フランスとの具体的なデザイナーの交流を進めた。

フランスデザイナーとの交流を通じて、日本とフランスとの文化的な親和性、協力可能性がつかめ、日本の素材に関する興味が高いことが分かった。

いまだ、安定的な経営の道筋は見えていないが、各事業単体としては、直接事業費と参加料等の収入に大きな欠損を生まずに実施できており、その差額と、ベースの人件費、賃料等の団体運営経費を公益目的財源に頼るという構図となっている。

事業選定に当たっては、外部からの資金援助を探索し、従来 of JKA競輪からの補助金に加え、経済産業省の各種補助金の導入に努め、関西フランスデザイン交流事業と、JAPANブランド育成支援事業で、1,074万円の国庫補助金を得られたので、財政的には助かった。

当財団の平成28年度の経常収益は43,238,001円、経常費用は101,540,628円となり、58,302,627円の赤字となっている。そのほとんどは、公益に関する事業として認可を受けた実施事業の赤字額56,898,687円であり、公益目的財産の取り崩しによって賄っている。特定資産売却損益が+15,178,119円あったので、緩和された。

正味財産の期末残高は、1,029,961,184円と前年よりも101,656,713円の減少となっているが、特定資産の評価損が▲65,046,910円あるので、実体としては、3,660万円程

度の減少にとどまっている。

昨年度と同様に、有価証券の買い替え、売却時の名目的な利益が計上されて、公益目的支出計画の目標が全く達成されていない外観になったが、実態としては、着実に公益目的を履行しつつある。

[事業実施結果]

事業費総額	92,389,285 円
事業収益総額	43,238,001 円

I (価値) 開発軸

1. 人材育成

① デザインプロデューサー育成講座

今後必要とされるビジネス・パーソンとして、命題に対して美しい答えが見える化できる「ソリューション能力」のある人、市場ニーズ、商流を理解して、経営的な観点から商品や仕組みをプロデュースできる人材を養成した。

今年度は、関西フランスデザイン交流事業に応募した企業を対象に実施した。

時期 平成 28 年 8 月 31 日 (水) から 10 月 12 日 (水) まで 6 回。

16 : 00 ~ 19 : 00 (週に 1 回程度)

場所 ODC SEMBA 会議室

講師 川添光代、山納 洋、羽場一郎、吉田順一、天野譲滋、明上誠治 各氏

参加料 無料

参加者 20 名

② デザインシンキング・ワークショップ

イノベーションにあたっての問題分析、課題設定能力を高め、アイデアを生み出すメソッドを理解し、実践できる人材を養成した。

一人のデザイナーを講師として、社会状況把握、課題抽出、提案、プレゼンテーションと、ステップごとの講義を行った。

今年度は、関西フランスデザイン交流事業に応募した企業を対象に実施した。来日中のフランスデザイナー、Mr. David Moreeuw、Mr. Antoine Fritsch 氏にも参加してもらった。

時期 平成 28 年 11 月 4 日 (金)、18 日 (金)、25 日 (金) の 3 日間 13:30~17:00

場所 ODC SEMBA 会議室

講師 (株) Y 三宅喜之氏

ワークショップテーマ 「フランス人が選ぶ日本土産」

参加料 無料

参加者 13名

③ デザイン商品の販路・市場講座

現在のモノ余り成熟社会では、「市場動向に合致」していて、かつ、「良い」商品でないと売れないことを理解し、消費者ニーズ、販売者の意図を正確に捉えて、ニーズに対応するだけでなく、ニーズを先取りし、呼び起こすような戦略的な商品開発に結びつけるべく、講義とミニワークショップを行った。

今年度は、関西フランスデザイン交流事業に応募した企業を対象に実施した。

時期 2017年1月18日(水) 2月1日(水) 13:30~17:00

場所 ODC SEMBA 会議室

講師 石本 和治 氏 山本 真純 氏

テーマ デザインシンキング総論、販売戦略、顧客価値。企業のブランド戦略の立て方。

参加料 無料

参加者 7名

④ 商品パッケージ企画実習講座

商品の良さや魅力、ブランドの価値を伝えているのは、まさにパッケージ。実務経験豊富なプロのデザイナーを講師に迎え、消費者に選ばれるパッケージづくりに向けて、基礎知識から効果的な展開手法まで、体感的に修得した。

時期 4月20日(水)~6月8日(水) 16:00~19:00 全7回

場所 ODC SEMBA 会議室

講師 三河内 英樹、坂元 雄二、奥田 利枝子、大力 千津子、竹内 美江、北中 正紀、松尾 政明 各氏

テーマ 商品の3要素「中身・パッケージ・価格」のバランス 他。

参加料 60,000円

参加者 16名

⑤ デザイン・インターンシップ

(JKAからの補助金1,549千円)

デザイナーを目指す学生にデザイン事務所で実際に学ばせ、デザインスキルや企画提案能力、コミュニケーション能力や社会人としての礼儀、マナーなどの必要性を学ばせた。

時期 夏休み期間中 7/19 から 9/30 までの14日間

参加学生 神戸芸術工科大学、大阪市立デザイン教育研究所などの学生20人

受け入れ先 アイデアデザイン、(株)タチバナデザインなど 大阪市内20か所のデザイン事務所

参加料 無料

⑥ 産学連携ものづくりデザインサポート

(JKAからの補助金 476 千円)

デザイン専門学校生・大学生とものづくり中小企業の出会いの機会を提供して、学生には生産現場でのデザイン開発体験を、企業には若い人の斬新なアイデアの導入を促した。

公募した結果、モノづくり企業 6 社と、学生 36 名の応募があり、グループに分かれて、企画、提案、制作を経てデザイン提案を行ってもらった。

h28. 7/4～22 参加企業募集 h28. 8/17～9/16 学生募集 10/8 マッチング会

10/11～10/28 学生の企業訪問 プレゼン 1 11/3 プレゼン 2 11/23

最終プレゼン 12/10

参加料 企業から@5 万円×6 社 学生参加は無料

⑦ キッズデザイン

子ども向けイベントとして、「ユーザーとともに考えるデザイン展」を開催した。

時期 9 月 17 日(土)～19 日(月・祝) 11:00～17:00

場所 ATC10 階デザインギャラリー

テーマ 感じるデザイン絵本展

参加料 無料

参加者 1,804 名

新規事業として「小中学生向けの、デザインを活かして創造性を高める教育カリキュラム」の推進方法を検討し、H29 年度に向けた JKA 補助事業として申請した。

その結果採択されたので、29 年度に実施予定である。

⑧ デザイン・シンポジウム

JKA からの補助金を得て、「デザインの力」をテーマにシンポジウムを実施する予定であったが、補助金が不採択となったので中止した。

2 デザイン研究開発

(1) デザインエンジニアリング

知財、素材、技術、地域文化などのものづくりのシーズに着目して、デザインをエンジンとしたカタチづくりの機会を創出し、デザインビジネスにコミットする趣旨で、

① 大学の知財を活かした商品化プロジェクトとして、大阪大学の遠近可変の液晶レンズの製品事業化を検討したが、基礎的性能が確立されておらず、中止した。

II (価値) 共有軸

1 デザイン情報の共有、交流

(1) ホームページならびにメールマガジンの充実

当センター事業の開催告知など新しい情報をその都度発信するとともに、大阪を主とする多様なデザインに関する取組みをサイト内の「KANSAI DESIGN INFO.」や公式 facebook で情報提供した。操作性の改善やコンテンツの再編、コラムの執筆などを行い、ユーザーが求める情報への到達率向上を図るとともに、SNS と連動させてアクセス数をアップさせた。メルマガにおいても毎週、当センター事業をはじめ他機関・団体のセミナー・イベント・コンペ情報を掲載して発行した。

(2) デザイン事務所データベースの整備と運用管理

在阪を中心とするデザイン事務所データについて、業務内容・得意分野など関連情報を収集の上、ホームページにおいてアップすると共に、デザイン相談やデザイナー紹介などにおける利用者のニーズに応える案件にも活用した。また、登録デザイン事務所に対して、当センターの関わるデザインイベント・セミナー等の情報をメルマガ等で提供した。

○登録デザイン事務所数

- ・ビジュアルデザイン分野 333 社（前年度は 315）
- ・プロダクトデザイン分野 112 社（前年度は 108）
- ・スペースデザイン分野 63 社（前年度は 58）

(3) サロン交流

デザイン関係者や企業、官公庁等幅広い方々が気楽に集まって交流を図り、情報発信できる場をもつため、当財団所有の船場会議室を開放して、デザイントークと交流の場、「SEMBAサロン」を開催している。

平成 28 年度は、第 54 回から 73 回まで、延べ 20 回、221 名の参加を得た。

うめきたのナレッジサロンは、関西の産・官・学のイノベーション拠点として、多彩な人々の結集拠点となっているので、引き続き、デザイン関係者がサロン入会を希望する場合の便宜を図り、連携・活用をしている。

(4) 賀詞交歓会

賛助会員をはじめデザイン団体関係者同士の交流・情報交換・親睦を目的に開催した。

日時 平成 29 年 1 月 17 日

会場 ヴィアーレ大阪

参加者数 55 名

記念講演 「建築への思いー魅力的な空間づくりー」

大平滋彦 氏（株式会社竹中工務店 大阪本店設計部 設計第 4 部長）

2. 大阪・関西のデザインに対する発信力強化

(1) 「OSAKA STYLING EXPO」

(大阪商工会議所との連携事業 JDF事業費 16,476 千円)

大阪商工会議所および大阪スタイリングエキスポ実行委員会(事務局:大阪商工会議所)が実施する「OSAKA STYLING EXPO」に主催者の構成団体として参画した。平成22年度から参画しており、今回で7年目となる。

同事業は、大阪らしいライフスタイルの発信を通じ、大阪の賑わい向上とファッション・ライフスタイル関連産業の振興に貢献することを目的とし、関西で活躍するクリエイター等が創り出す商品の中から、消費者に支持される商品をコーディネートし、「OSAKA STYLING」として発信することにより、消費の刺激、消費者起点の商品開発、新進クリエイターの発掘・育成等に資するものである。

プログラムはFASHON部門とLIVING部門で構成され、

FASHON部門は、メーカーの合同ファッションショー、新進ブランドの合同ファッションショーを中心に構成された。今回は、11月23日(祝)に堂島リバーフォーラムで開催され、3,085名の参加があった。

LIVING部門では、大阪人の価値観に調和した優れたデザインや新しいライフスタイルの提案で毎日の生活を彩るプロダクトを募集、選定した商品の展示・販売会や各種催しがあべのハルカス近鉄本店で1月18日(水)から24日(木)まで開催され、78社の応募者のうち、28社が出展した。

(主催者である大阪スタイリングエキスポ実行委員会の構成団体は、当財団のほか、大阪商工会議所、大阪市、関西経済同友会などである。)

(2) 展示会等による情報発信 (大阪市との連携事業 JDF 事業費 5,155 千円)

① 「LIVING & DESIGN 2016」への出展 (JDF 事業費 889 千円)

「住まいと暮らしのリノベーション」をテーマに2010年から開催されている西日本最大規模の住空間の国際見本市に出展して、企業や流通関係者、一般市民に、デザインを活かしたものづくりの意識啓発を進め、大阪のデザイン力を広くPRした。

1. 実施時期 平成29年10月12日(水)～14日(金)(3日間)10～18時

2. 場 所 大阪南港 ATCホール

② デザイン関連の様々な展示会、イベント等を実施又は誘致することで、大阪のデザイン力を発信し、デザインについての意識啓発を行った。

(ア) 福祉現場で生まれるアート展 ～デザイン×福祉の可能性～ (JDF 事業費 1,620 千円)

日時 9月6日(火)～11日(日)10:00～18:00

場所 ATC 10F デザイン振興プラザギャラリー、ショーケース

参加者 展示1,120名、フォーラム112、WS70

講師 ワークショップ (株)クラフル、しおいりともえ

フォーラム 中川悠、木ノ戸昌幸 他
参加費 無料

(イ) 音であそぶ！ 体験型フェス 「ぱぱぱ PARTY！」

(J D F 事業費 2,646 千円)

「音」をテーマに最新テクノロジーとアナログ体験をかけあわせた子供の新しい遊び場。「パパパDJ」「オノマット・ペー」など。

日時 11月3日(祝) 5日(土) 6日(日)

場所 大阪南港 ATC 2F 催事場

参加者 3,469名

参加費 700円

3 デザインビジネスマッチング、ビジネス支援

(1) デザインビジネスプロモーションセンター(DPC)の運営

中小企業のデザイン導入・活用に関するあらゆる相談や情報提供、さらには要望に応じたデザイン事務所の紹介や個別カウンセリング行うなど、中小企業とデザイナーとのビジネスマッチングに努めた。ホームページでの情報発信やマッチング事例集制作に加えて、「大阪勧業展」、「LIVING&DESIGN」への出展、当センター内や大阪デザイン振興プラザでの事例紹介など積極的な広報を行ったが、相談案件数 3,570 件、成約率 51.1%と前年よりも落ち込んだ。(26 年度成約率 56.8% 27 年度成約率 60.9%)

今後、他機関との更なる連携を深め、事業の PR を強化すると共に、企業依頼内容に対するデザイナーとの的確なコーディネート業務に注力し、マッチングの精度を意識した取組みを実施したい。

① デザイン一般相談・利用

一般相談・利用件数 3,570 件 (前年度は 4,054)

(内訳)

デザイン一般に関すること	デザイナー紹介に関すること	個別面談カウンセリングに関すること	データベースに関すること	その他	合計
1,861 (2,122)	1,192 (1,378)	68 (152)	301 (317)	148 (85)	3,570 (4,054)

② デザイナー・デザイン事務所の紹介

依頼件数 137 社 (前年度は 151) 紹介件数 129 社 (前年度は 139)

(内訳)

プロダクトデザイン分野		スペースデザイン分野		コミュニケーションデザイン分野		合計
成約 (開発中含む)	20	成約 (開発中含む)	3	成約 (開発中含む)	47	70
交渉中	5	交渉中	1	交渉中	15	21
不成約	19	不成約	2	不成約	28	46
合計	44	合計	5	合計	88	137

(前年度)	(56)		(7)		(88)	(151)
-------	------	--	-----	--	------	-------

※成約件数には、1 案件（1 企業）と複数デザイン事務所とのマッチングもカウント

③ DPC 専任コーディネーターならびに専門プロデューサーによる個別面談カウンセリング

DPC 専任コーディネーター(ODC 職員)対応 100 件／専門プロデューサー対応 7 件

合計カウンセリング件数 = (100/7) 107 件 (前年度は 139)

(内訳)

プロダクトデザイン分野	スペースデザイン分野	コミュニケーションデザイン分野
39 件 (52 件)	9 件 (9 件)	66 件 (78 件)

④ 外部展示会等への出展

- ・「LIVING&DESIGN」 ATC ホール 平成 27 年 10 月 12 日・13 日・14 日 (3 日間) 開催
会場来場者数名 7,378 名 ブース来場者数 128 名
- ・「大阪勤業展」マイドームおおさか 平成 27 年 10 月 19 日・20 日 (2 日間) 開催
来場者数 8,034 名 ブース来場者数 134 名
中小企業のためのデザインセミナー「デザイナーと初めてのデザイン開発」
平成 27 年 10 月 20 日 受講者数 15 名 講師：釜田 聡

⑤ 広報活動その他

- ・デザインイベント・セミナーでのチラシに加えて、マッチング成果事例集を新たに制作して配布。ホームページでのマッチング事例 (case study 掲載事例 累計 153 件) を相談企業の声と共に多数掲載して情報発信。
- ・当センターならびに大阪デザイン振興プラザにおけるマッチング事例の展示
平成 28 年 4 月 1 日～3 月 31 日 展示点数約 20 点

⑥ 主な視察状況

9 月 16 日	公益財団法人ひろしま産業振興機構	2 名
11 月 15 日	札幌市	1 名
11 月 25 日	西野田工科高等学校	27 名
12 月 27 日	大阪産業創造館	3 名
1 月 11 日	徳島県商工労働部企業支援課	3 名
3 月 8 日	神戸市企画調整局創造都市推進部 デザイン都市推進担当	3 名

(2) ビジネス支援

地域伝統製品の高度化、六次産業化、地域創生などの地域課題の解決のために、デザイン手法が活用されるように柏原市に働きかけたが進展が見られなかった。

(3) 販売ショーケース in ODC「URIMA」

当センター内に販売ショーケースを設置し、中小企業やデザイナーのつくったオリ

ジナル雑貨商品のテストマーケティング・プロモーションの場を提供。また、ATC 内で開催の「感じるデザイン絵本展」「LIVING&DESIGN」にも一部出品した。

第 3 期（平成 28 年 8 月 1 日～11 月 30 日）出品者数 14 社 販売点数 28 点

第 4 期（平成 28 年 12 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日）出品者数 13 社 販売点数 27 点

4 事業企画

(1) 大阪デザインカウンスルの設置、事業スキームの精査

関西のデザインの方向性を協議する場として「大阪デザインカウンスル」を置く予定であったが、具体的な事業案が無いと協議が進まないのではないかと考え、大阪デザインカンファレンスという社会問題を分科会形式で協議する大きなシンポジウムの構想を進めている。

また、フランス交流事業と J A P A N ブランド育成支援事業を進めていく過程で、国内はもとより海外でも素材、マテリアルへの関心が高いことが分かったので、「マテリアル・ミュージアム」の検討を進めている。

Ⅲ 国際軸

1 国際的なデザイン交流

国際デザイン交流協会の理念を受け継ぎ、世界と日本とのデザイン交流を進める。

① 関西・フランスデザイン交流事業

「国際デザイン交流による地域デザイン力強化のためのプラットフォーム形成事業」

（特許庁定額補助(地域中小企業知的財産支援力強化補助事業)9,000 千円) **【新規】**

11 月にフランスからデザイナー、企業家 5 名を招聘して、公開セミナー開催、関西の企業とのデザイン交流・アドバイスを実施した。並行して、日本企業のデザイン力向上のための講座を 3 シリーズ開催(プロデューサー、シンキング、販路)した。来日フランス人デザイナー

①若手男性デザイナーとして、Mr. David Moreeuw 氏

②著名デザイナーとして Mr. Antoine Fritsch 氏

③中堅・気鋭の女性デザイナーとして、Ms. Constance Guisset 氏

④企業代表として Carrefour グループのグローバルデザインディレクターである
Mr. Philippe Picaud 氏

⑤APCI の国際委員長である Gérard Caron 氏

1. 日仏交流セミナー 11 月 8 日(火)13:30～17:30 (於) ナレッジキャピタル、
参加者 セミナー131名 参加料 無料

2. 国内外デザイナーとものづくり事業者との事業交流

期間 11/9～25

場所 各企業、

参加企業 デザイン事務所が2社、中小企業が18社、合計20社の応募があった。
グルマンディーズ、大阪製罐・アスピリン、ハードロック工業、庫内、アイデア、昇苑くみひも、加地金欄、日清精工、八洲物産、三恵メリヤス、異繊維工業所、Chocola Tan、Like IT社、ユニオン社、サンパック社、中辻金型社、ロブテックス社、サンワカンパニー社、ヴァイタル・インフォメーション社。

参加者 企業交流19社 人材育成20社

参加料 無料

3. 人材育成講座

①デザイン・プロデューサー育成講座 8月31日(水)～10月12日(水)(全6回)、

②デザインシンキング・ワークショップ 11月4日、18日、25日(金)、

③デザイン商品の販路・市場講座 1月18日(水)・2月1日(水)(於)SEMBA

参加企業 人材育成20社

場所 船場会議室

参加料 無料

② 国際デザイン交流協定 【新規】

2016年9月5日に、パリにおいて、ODC越田理事長とフランスのデザイン振興団体A.P.C. I会長がデザイン交流協定書MOUを締結した。

③ 国際的なデザインに関する意識啓発事業(大阪市との連携事業)

(JDF事業費 2,700千円)

フォーラムの実施により、デザイナーやクリエイターに対して国際的なデザインについての意識啓発を行う。

アジアで活躍する各国のデザイナー・クリエイターを招聘し、それぞれの国の文化や魅力を知る機会を提供するとともに、大阪のデザイン力を発信した。

「Asian Round Table」

～食のイノベーターが集う国際カンファレンス アジアの食卓の未来～

「食の円卓会議」台湾、韓国、インドネシア、タイから参加。

日時 3月3日(金) 13:30～20:00

場所 大阪南港 ATC サンセットホール

参加者 91名

参加費 3,000円

2 海外販路開拓支援

① プロジェ・プロジェクト

「伝統・先端技術を活かして建材を国際化・ブランド化する戦略調査事業（JAPANブランド育成支援補助事業 1,740 千円）」 【新規】

H29.9 パリのメゾン・エ・オブジェのプロジェ部門（素材、マテリアル）への出展を目標として、量産型の建材にない日本独自技術と海外の知財を融合させた新商品開発に戦略的に取り組むために、中小企業庁の補助金を得て、H28 は実態調査、課題把握、戦略策定、参加企業募集を行った。9月1日（木）～3月31日（金）

1月31日の企業への説明会には16社の出席があった。

② コロナ・プロジェクト

フランスマーケットの実情に詳しく、どのようなブランド戦略、モノづくり、どのような販路に乗せればよいのかを、アドバイスしてもらえ、質の高いマーケット・アドバイザー ジャン・リュック・コロナ・ディストリア 氏から指導してもらった。

h27年度に続き、2年目。

（ア）コロナセミナー

<日程、内容> 4月26日（火）13：30～16：40

フランスマーケットの実情・特性 コロナ 氏

海外展開の実例報告 青芳製作所 青柳修次氏 小関隆一氏

<場所> 御茶ノ水 ソラシティ カンファレンスセンター

<参加者> 48人

<参加費用> 2万円

（イ）コロナクリニック

<日程、内容>

2016.9.6（火） 各社パリに現地集合して、各自、メゾン・エ・オブジェを視察した。

2016.9.7（水） 10：00～17：00 コロナ氏のフランス市場の講義と各社の商材クリニック パリ市内民間事務所にて。

2016.9.8（木） パリ市内数か所のセレクトショップをチャーター・バスで巡回して、現場での販売形態、各社にふさわしい店舗等の実地指導を受けた。

<参加者> 6人

<参加費用>

1人 30万円 ODCの賛助会員は、1人 20万円

（これ以外に、パリへの渡航費、滞在費の自己負担が必要）

IV ODC関係

(1) 賛助会員の加入促進

健全な財政運営を図っていくためには、自主財源である賛助会費収入の安定的な確保が不可欠であり、引き続き、ODCが行う諸事業に賛助会員割引を設けて、新規加入促進に努めた。

また、賛助会員には、各種デザイン情報のメール配信のほか、賛助会員証の発行、HPへの明示、業務発注便宜など具体的な会員サービスの強化策を実施した。

(2) (財)国際デザイン交流協会継承資産運営委員会

(財)国際デザイン交流協会から引き継がれた財産の管理や財産をもって行う事業については、(財)国際デザイン交流協会継承資産運営委員会（構成：大阪府、大阪市、大阪商工会議所、近畿経済産業局の役職員の中からそれぞれ1名を、理事会の同意を得て理事長が委嘱する。）で審議を行うこととしており、大阪・関西のデザイン振興に有効で効果的な事業が実施できるよう、運営委員会で協議した。

なお、本財団の自律的の運営とするために、平成29年3月31日付をもって委員会を廃止した。

(3) 商工経済団体との連携強化

大阪商工会議所、大阪府中小企業団体中央会、大阪府商工会連合会、大阪市工業会連合会などの商工経済団体との連携を強化し、諸事業の積極的な展開を図る。

(4) 施設賃貸事業（賃貸収入4,614千円）

船場センタービル4号館に保有する142.12㎡の資産を有効に活用するため、3階部分は外部への賃貸を継続し、2階は貸し会議室SEMBAとして活用した。

(5) デザイン団体支援（受託収入1,486千円）

大阪デザイン団体連合 USD-O、(公社)日本インダストリアルデザイナー協会 JIDA 関西ブロック、(公社)日本インテリアデザイナー協会 JID 西日本エリア、(一社)日本商環境デザイン協会 JCD 関西支部、あぷーん AP~N(Ageless Planning Network)からの委託を受け、各団体の事務局業務を推進し、各団体の支援に努めた。